

令和 4 (2022)年度										年 間 授 業 計 画									
教科・科目			国語				現代の国語				2		単位						
対象学年・組			1 年生								必履修								
教科書 (出版社)			現代の国語（大修館書店）								常用漢字ダブルクリア（尚文出版）								
学習目標 【観点別】			○実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。【知識及び技能】 ○論理的に考える力や豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。【思考・判断・表現】 ○言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う【主体的態度】																
学期		予定 時数	単元 具体的な指導目標		指導項目・内容			評価規準			話 聞	書	読	知	思	態			
1	前半	12	明日をひらく 「白紙」 要点をつかむ 「水の東西」		・言葉やコミュニケーションの基礎を知り、学びに向かう姿勢をつくる。			【知識・技能】 ・言葉の意味内容をあらためて考え、認識や思考と言葉との関係を理解している。【(1)ア】 ・読書の経験が読者の考え方に大きな影響を与え得ることについて理解を深めている。【(3)ア】 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、エッセイを読み、内容や構成、論理の展開などについて叙述をもとに的確にとらえ、要旨や要点を把握している。【C (1)ア】 【主体的に学習に取り組む態度】 ・問いに向かう姿勢を振り返り、自力で考えることを大切にしようとしている。			○	○	○	○	○	○			
	後半	12	文章の論理をとらえる 「動的平衡としての生物多様性」 資料を用いて発表する		・主張と根拠、理由づけの関係ををとらえる。 ・演繹、帰納に着目して、文章の論理をとらえる。			【知識・技能】 ・主張と論拠などの情報と情報の関係や、推論のしかたについて理解している。【(2)ア・ウ】 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、本文における情報の関係に注意しながら、内容や論理の展開について叙述をもとに的確にとらえている。【C (1)ア】 【主体的に学習に取り組む態度】 ・論理的な文章を読むことを通して、情報の関係や推論のしかたに注意しながら内容や展開を把握することに強く取り組み中で、自らの学習を調整しようとしている。			○	○	○	○	○	○			
2	前半	14	資料と文章の関係を読む 「インターネット時代の音楽産業」 状況に応じた通信文を書く		・資料と文章の関係に注意して、情報を読み取る。			【知識・技能】 ・文章と図表の情報がどのような対応関係にあるかを理解している。【(2)ア】 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において文章や図表などに含まれている情報を相互に関連づけながら内容を解釈するとともに、自分の考えを深めている【C (1)イ】 【主体的に学習に取り組む態度】 ・図表を伴う文章を読むことを通して、それぞれの情報を相互に関連づけて内容を強く解釈し、自分の意見を深める中で、自らの学習を調整しようとしている。			○	○	○	○	○	○			
	後半	14	文章を比較して読む 「個人から文人へ」 資料を用いて発表する 文章を読み取って主張を書く		・複数の文章を比較し、共通点や相違点をとらえる。			【知識・技能】 ・個別の情報と一般化された情報との関係について理解している。【(2)イ】 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、目的に応じて、文章に含まれている情報を相互に関連付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めている。【C (1)イ】 【主体的に学習に取り組む態度】 ・複数の文章を比較して読むことに意図をもち、共通点や相違点をとらえようとしている。			○	○	○	○	○	○			
3		18	主体的に読む 「作業ロボットの悲劇」 レポートを書く		・目標に即して、文章から必要な情報を読み取る。 ・読み取った情報を活用する。			【知識・技能】 ・主張の根拠の信頼性や妥当性について、確かめたり吟味したりしている。【(2)エ】 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、目的に応じて文中の情報を関連付けながら内容や書き手の意図を解釈し、自分の考えを深めている。【C (1)イ】 【主体的に学習に取り組む態度】 ・積極的に、自分の目的に応じた情報を文章から取り出し、自分の考えを形成したり修正したりすることに活用しようとしている。			○	○	○	○	○	○			
評価の観点 (評価基準)			○生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。 ○「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 ○言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。																
評価の方法			定期考査、小テスト、提出物、授業態度等により評価																
学習の手引き			○日々の学習を大切に、授業に積極的に参加すること。 ○生涯にわたり必要な国語の知識・技能を身に付け、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 ○他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。																
授業担当者			田中達夫・松岡杏沙子																